

2024年11月14日

「IR優良企業賞2024」発表

一般社団法人日本IR協議会（会長：手代木功 塩野義製薬株式会社代表取締役会長兼社長 CEO）は、このほど「IR優良企業賞2024」受賞企業を決定いたしました。

「IR優良企業賞」（審査委員長：北川哲雄 青山学院大学名誉教授、東京都立大学特任教授）は、IRの趣旨を深く理解し、積極的に取り組み、市場関係者の高い支持を得るなどの優れた成果を挙げた企業を選び表彰することを目的としており、今年で29回目を迎えます。審査では、主に下記の点を重視して受賞企業を選定いたしました。

- **【成長戦略の実効力】** 外部環境の変化を織り込み、構造的な改革も辞さない成長戦略を策定。その実効力をどう高めていくかを、投資家の視点を踏まえて説明・対話する取り組み。
- **【企業グループ全体の説明力強化】** CEOとIR担当役員、IR部門に加え、事業部門責任者などを含む企業グループ全体の説明力や対話力を強化。多様な投資家と経営戦略、コーポレートガバナンス、サステナビリティなどをテーマに対話し、社外取締役なども参加。対話で得られた「気づき」を取締役会や企業グループ全体で共有し、目指す姿に近づける取り組み。
- **【企業価値・社会価値を結びつけて向上】** 気候変動対応や人的資本への投資、女性活躍推進などサステナビリティ関連の取り組みを、投資家の視点で企業価値と結びつけて説明。さらにステークホルダーと協働し、社会価値向上につなげる道筋を、定量的な指標や活動例の紹介などを通じて説明・対話する取り組み。
- **【中長期視点の海外投資家と個人投資家の支持獲得】** 資本生産性向上に期待する海外投資家の視点を踏まえて説明資料や対話機会を拡充。新NISAを機に投資に関心を持つ個人に対しても説明会などを通じ、新たな株主層として開拓する取り組み。
- **【リスクの早期認識と対応】** 地政学リスクや情報セキュリティ問題の拡大などによって、先行きの見通しが難しいなか、リスクの認識を早めに示し、対応していることを示す取り組み。

北川審査委員長は、「今年度の受賞企業は、環境が大きく変化するなかでも高いレベルの情報開示を継続し、経営に対する投資家の信頼を集めているといえます。経営トップは投資家との対話を通じて課題を社内と共有し、経営戦略やIRに反映させています。社内外の最新データを基盤にしてロジカルに説明するIR担当者も増えてきました。研究・開発領域や人的資本に関する説明も充実してきています。社外取締役が投資家と対話する機会の設定やサステナビリティ説明会の開催に対しての評価も高まっています。奨励賞受賞企業も、投資家の声を吸収して情報開示を充実し、理解を促す取り組みを進めています。『貯蓄から投資へ』の流れが鮮明になるなか、今後もIR活動の向上が期待されます」と語っています。

審査対象は、日本 I R協議会の会員企業のうち株式を公開している企業で、2024 年の応募企業は 355 社となりました。受賞企業は I R優良企業大賞 2 社、I R優良企業賞 6 社、I R優良企業特別賞 2 社、I R優良企業奨励賞 2 社の 12 社です。受賞企業の主な選定理由とこれまでの受賞歴は、別紙に記載しています。

(各賞社名 50 音順)

I R優良企業大賞 受賞企業

味の素株式会社
テクノプロ・ホールディングス株式会社

I R優良企業賞 受賞企業

株式会社アシックス
伊藤忠商事株式会社
株式会社小松製作所（コマツ）
株式会社コンコルディア・フィナンシャルグループ
第一三共株式会社
三井化学株式会社

I R優良企業特別賞 受賞企業

株式会社ツムラ
日産化学株式会社

I R優良企業奨励賞 受賞企業

あすか製薬ホールディングス株式会社
株式会社 U-NEXT HOLDINGS

各賞の概要は下記の通りです。

I R優良企業賞

日本 I R協議会の会員でかつ、株式を公開している企業を対象に、毎年選定・表彰しています。

I R優良企業大賞

I R優良企業賞を直近 10 年以内に 2 回受賞し、3 回目も受賞に値すると評価された企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。なお、受賞翌年から 2 年間は「I R優良企業賞」の対象から除外されます。

I R優良企業特別賞

I R優良企業賞に応募した企業のうち、継続的に I Rのレベルを高めている、業界のリーダーとして I Rに積極的である、個人投資家向け I Rの評価が高い——など、活動内容に特徴の見える企業を表彰しています。2005 年より表彰をスタートさせました。

I R優良企業奨励賞

I R優良企業賞に応募した企業のうち、東証スタンダード市場や東証グロース市場、その他新興市場に上場する企業、また東証プライム市場であっても新規に株式を公開後 10 年目以内の企業、および I R優良企業賞に初めて応募する企業のうち中小型株企業を主な対象として表彰し

ています。2002年より表彰をスタートさせました。

審査方法は3段階で、下記の通りです。

- ① 応募企業が提出した「調査票」の結果をもとにした第1次審査（292社が第2次審査へ進出）
- ② 審査委員のうち、証券アナリスト、機関投資家、ジャーナリストなどの専門委員12名がI R優良企業賞審査対象企業217社、I R優良企業奨励賞審査対象企業75社を評価する第2次審査
- ③ 専門委員による第2次審査をもとに、学識経験者、弁護士等も加わった審査委員全員による最終（第3次）審査

「“共感！” I R賞」を選定いたしました。

“共感！” I R賞（共感賞）とは、I R優良企業賞の開催25回目を機に2020年に新設したものです。I R優良企業賞に応募した企業の視点を「投票」によって反映させ、積極的なI R活動を共有し、ベストプラクティスの実現を目指すことを目的としています。2024年は「経営層と投資家との距離感を縮める取り組み」をテーマといたしました。詳細および選定企業につきましては日本I R協議会ウェブサイト <https://www.jira.or.jp> をご覧ください。

※本ニュースリリースの英語版は日本I R協議会ウェブサイトにてご覧いただけます。

問い合わせ先： 一般社団法人日本I R協議会 事務局

TEL：03-5259-2676 FAX：03-5259-2677

日本I R協議会とは：1993年設立のI R普及を目的とする非営利団体。会員数は713（2024年10月1日現在）、主な活動はI Rの研修活動、調査・研究、企業間の交流など。

<https://www.jira.or.jp>

【別紙】受賞企業の主な選定理由と受賞歴（各賞社名 50 音順）

I R優良企業大賞 受賞企業

味の素

（2015 年大賞/2022 年・2021 年・2014 年・2012 年優良企業賞）

長期にわたり、全社で I Rに取り組む姿勢を継続している。2021 年、2022 年の I R優良企業賞受賞後も、活動内容を向上させている。CEO は四半期ごとに決算説明会で自ら説明し、CFO も積極的に対話している。事業環境の変化に伴う投資家の関心に迅速に対応し、企業買収の際にも機動的に説明会を開催している。事業説明会やサステナビリティ説明会の継続開催、B to B 事業に関する開示も充実している。取締役会の様子を動画公開する試みも始めている。

テクノプロ・ホールディングス

（2022 年・2021 年優良企業賞/2019 年奨励賞）

投資家との対話のベースとなる情報開示が充実している。決算説明会資料などが詳細で、KPI に基づく説明がわかりやすい。決算説明と合わせて中期経営計画の面からも情報を更新し、投資家の関心に応えている。自社関連情報だけでなく市場環境のデータも充実しているため、業界の全体像を把握できる。CEO と CFO の I R姿勢も積極的で、2021 年、2022 年の I R優良企業賞受賞後も活動を進化させている。社外取締役との対話や人的資本投資の説明も評価されている。

I R優良企業賞 受賞企業

アシックス

（2023 年優良企業賞）

経営層が戦略や見通しを率直に語っている。投資家が重視している項目への回答も明確で、具体的な数値を伴う説明には説得力がある。CFO は投資家の視点を踏まえて対話し、相互理解が深まっている。対話のテーマも構造改革、成長戦略からコーポレートガバナンス、ブランドなど広範にわたっている。I R部門は極めて多くの対話機会を設定し、内容の向上にも取り組んでいる。IR Day などのイベント開催や投資家目線で作成された資料、決算短信などもわかりやすい。

伊藤忠商事

（2012 年優良企業賞/2011 年特別賞）

経営トップが市場の目線を強く意識し、I Rに関与している。投資家と経営課題を共有し、外部環境の変化を踏まえ策定する経営戦略も、その積極性を示している。I R部門は、定評ある統合報告書の作成、投資家の関心を捉えた事業説明会、各種 I R資料作成などをバランスよく実施している。充実した活動をさらに向上しようとする姿勢やトップとの緊密な連携、事業部門からの情報収集力なども評価されている。ESG と事業価値を関連付けて説明する取り組みも注目されている。

コマツ

（2017 年・2010 年大賞/2020 年・2016 年・2013 年・2008 年・2007 年優良企業賞）

四半期ごとの経営トップとの対話と情報開示が経営への信頼を集めている。I R部門は CFO との対話機会設定や海外拠点訪問などのイベントを開催し、事業戦略の理解を深める活動に取り組ん

でいる。業界の見通し関連の多様な情報を開示し、常に質的な向上を目指す姿勢も継続している。社外取締役とのミーティングは、経営に資本市場の声を届ける取り組みとして評価が高い。投資家視点を踏まえた株主還元やキャッシュフローを意識した資本政策にも注目が集まっている。

コンコルディア・フィナンシャルグループ

(2023年特別賞)

経営トップは就任以来、積極的にIRを進化させている。経営層と投資家との対話機会の増加、社外取締役との定期的なミーティング開催、IR Dayの複数回開催などに前向きな姿勢が表れている。IR部門は投資家の声を踏まえて決算説明会資料や統合報告書を作成しており、PBRの改善策などの説明も投資家目線に応えるものとなっている。事業ごとの定量的・定性的な情報開示、企業価値向上に関するロジカルな説明、質問への適切な対応への評価も高い。

第一三共

(初受賞)

トップをはじめとする経営層が資本市場と向き合う姿勢を明確に示している。経営層による説明会やミーティングも定期的に設けている。IR部門は研究・開発関連の説明会を高い頻度で開催し、事業責任者とのミーティングなども設定して、投資家の関心に応えている。継続的で詳細な情報開示、テーマを設けて開催する説明会やミーティング、海外投資家を意識したロードショーの実施など、企業価値向上を目指す活動が充実し評価も高まっている。

三井化学

(2022年・2014年優良企業賞/2023年・2013年特別賞)

経営トップが企業価値向上を目指す姿勢を常に示している。環境変化を背景に事業ポートフォリオ改革を続け、成長戦略と合わせて説明する姿勢が評価されている。2024年にプラントで不具合が起きた際も再開の見通しが立った時点で迅速に情報開示し、トップ自ら説明する機会を設けている。IR部門は経営層と投資家とのミーティング設定、事業説明会などのイベント充実、社内外の最新情報に基づく取材対応などのレベル向上に取り組んでいる。

IR優良企業特別賞 受賞企業

ツムラ

(初受賞)

近年IR活動に意欲的に取り組み、向上に努めている。経営層とのミーティングや情報開示の改善には、投資家の疑問に真摯に対応しようとする姿勢が表れている。IR部門は事業の理解を深めるために漢方市場の特徴やビジネスモデルなどの情報開示を強化し、長期視点の分析に資する情報開示を意識している。経営層もIRに積極的であり、投資家が指摘する課題を取締役会においても議論したうえで資本政策を策定し、その考え方を丁寧に説明している。

日産化学

(初受賞)

高いレベルの情報開示を続けている。CFOを中心に投資家視点を踏まえて対話しており、IR部門による説明も適切でわかりやすい。決算説明会資料においては、セグメントごとの利益増減分析

や主要製品ごとの予実差異分析などが詳細で説得力が高い。中長期視点で事業状況を分析し説明する点も評価されている。業績悪化に対する懸念があった際も迅速に情報開示し説明する機会を設けており、率直な対話姿勢が経営への信頼につながっている。

I R 優良企業奨励賞 受賞企業

あすか製薬ホールディングス

(初受賞)

情報開示に積極的で、説明会や資料の充実に努めている。説明会資料はデザインが工夫されていて読みやすい。業績予想をするための情報が詳細で、投資家との議論を深める出発点となっている。経営トップも明確な経営ビジョンを打ち出し、戦略を状況の変化に応じてアップデートするなどの積極的な姿勢を示している。I R 部門は中長期の成長戦略を示す活動を強化し、経営層とのミーティング開催や投資家視点のフィードバックに取り組んでいる。

U-NEXT HOLDINGS

(初受賞)

多角化する事業への理解を促す情報開示を強化している。説明会資料には詳細な業績変動要因やKPI 達成状況などを掲載し、I R 部門は投資家の質問に迅速に答えている。セグメントごとのビジネスモデルや競争優位性などを説明する資料も作成し、新たな投資家層の開拓にも取り組んでいる。事業部門トップによる説明やイベント開催も積極的である。経営トップの考えを知ってもらう取り組みや投資家との対話機会も増やしている。

以上